

## 1 回の健康診断で 26 年後の心臓血管病、がん、糖尿病を予測

1 回の健康診断で得られた生活習慣および生物学的リスクマーカーの結果と 26 年後の心臓血管病やがんの罹患率や死亡率、糖尿病の罹患率との関連性について検討した。

1985 年にスウェーデンの Habo に居住していた 757 人のうち、1985～1987 年に健康診断を受けた男性 652 人を対象に、健康プロファイルを看護師が調査し、さらに高リスク群には医師が検査を実施した。心臓血管病およびがんの罹患はスウェーデン保健福祉庁のデータから、糖尿病の罹患は薬局の医薬品販売データから評価した。健康プロファイルより、生活習慣（喫煙、運動、飲酒）と生物学的リスクマーカー（BMI[肥満指数]、血圧、血清コレステロール）に関する項目を選出し、リスクポイントに基づき被験者を 3 群に分けて比較した。その結果、リスクポイントの合計が最も低い群は、最も高い群と比べ、心臓血管病およびがんのリスクが有意に低かった。生活習慣に関するリスクポイントが最も低い群は、最も高い群に比べて心臓血管病リスクが有意に低く、生物学的リスクマーカーに関するリスクポイントが最も低い群では、心臓血管病およびがんの両方のリスクが有意に低かった。喫煙と血清コレステロールが最も重要な危険因子であった。糖尿病に関しては、BMI と喫煙が最も重要な危険因子であった。

今回の結果より、1 回の健康診断で確認された危険因子、とくに喫煙・BMI・血清コレステロールにより、26 年後の心臓血管病、がん、糖尿病が予測できる可能性が示唆された。

出典：British Medical Journal open. 2015; 5(5): e006798